

ボツワナ共和国月報(2025年12月)

主な出来事

【内政】

- UDC、モレオマオト議会補欠選挙で勝利
- 憲法改正案、第3読会を通過
- 大統領府、大統領府・国防・安全保障省へ再編
- 中国共産党使節団の来訪
- 市民権改正法案の可決

【外政】

- ブタレ国際関係大臣、アンゴラを訪問
- ブタレ国際関係大臣、第2回ロシア・アフリカ閣僚会合に出席
- ボコ大統領、私的国外訪問

【SADC関連】

- SADC事務局長、日本を訪問
- SADC事務局長、JICA理事長と会談
- SADC事務局長、JBIC総裁と協議
- SADC事務局長、JETRO理事と会談
- SADC事務局長、経団連と会談
- SADC臨時首脳会議が開催

【経済】

- ボツワナ銀行新総裁が任命
- アフリカ開発銀行、ボツワナのマクロ経済動向予測を下方修正
- 金融政策委員会開催
- ボツワナ、野菜輸入禁止を再導入
- 2025年10月の貿易統計

【広文】

- ボツワナ政府メディアのデジタル統合プラットフォームが始動

【当館関連行事】

- 「サウスイースト地区ハボローネ西中等学校教室建設計画」の引渡式

【内政】

- UDC、モレオマオト議会補欠選挙で勝利

6日、モレオマオト議会補欠選挙(ボツワナ北部、ボテティ西選挙区内)が実施され、UDC候補が当選した。次点はBCPで、BDPは得票数で第3位となった。投票率は約8

6%。2024年10月の総選挙時にはBDP候補が勝利していた。

○ 憲法改正案、第3読会を通過

9日、憲法改正案は38人の出席議員中26人の多数で第3読会を通過した。野党は棄権した。憲法改正案は3か月のクーリングオフ期間を経て、3月に国民議会での投票に付される見通し。

○ 大統領府、大統領府・国防・安全保障省へ再編

9日、ボコ大統領は、大統領府を、大統領府・国防・安全保障省とする再編を発表した。これにより同省の所掌事項は、国防、警察サービス、内務治安、民間警備、麻薬取締局、化学・生物・核・毒素兵器を含むこととなる。

○ 中国共産党使節団の来訪

10日～12日、中国共産党の李明祥中国共産党中央対外連絡部副部長率いるハイレベル使節団がボツワナを訪問し、ケオラペツェ国民議会議長を表敬訪問した他、UDC戦略チーム等と会談を行った。31日からは別の使節団がボツワナを訪問した。

○ 市民権改正法案の可決

17日、モコワレ労働・内務大臣が国民議会に提出していた市民権改正法案が、与党の賛成多数で可決された。改正により、高額投資家等の外国人にボツワナの市民権を付与できるようになり、他国との多重国籍が認められるようになる。

【外政】

○ ブタレ国際関係大臣、アンゴラを訪問

1日、ブタレ国際関係大臣は、アンゴラを訪問し、アルジェ(アンゴラ)で開催された「オラン・プロセス」に参加し、AUと国連のテロ対策に関するパネル討論に登壇した。同会議期間中、同大臣はアフマド・アッターフ・アルジェリア民主人民共和国外務・在外自国民コミュニティ・アフリカ大臣との二国間会談も実施した。

○ ブタレ国際関係大臣、第2回ロシア・アフリカ閣僚会合に出席

19日～20日、ブタレ国際関係大臣はカイロ(エジプト)で開催された第2回ロシア・アフリカ閣僚会議に出席し、ロシアとアフリカの連携強化を呼びかけた。大臣は、鉱業、農業、再エネ分野での経済協力の潜在性を強調するとともに、平和と安全保障、文化・教育交流の重要性に言及。多極化する世界情勢の中で、相互尊重に基づく持続可能なパートナーシップの構築こそが、アフリカの経済変革と安定の鍵であると訴えた。

○ ボコ大統領、私的国外訪問

5日～11日、ボコ大統領はハンガリー等を私的に訪問した。同大統領は、訪問の機会を利用して投資家とのフォローアップ会議を行った。また、28日～1月7日には、南アフリカを私的訪問。不在中はハオラテ副大統領が同大統領の役割を代行した。

【SADC関連】

○ SADC事務局長、日本を訪問

8日～10日、南部アフリカ地域共同体(SADC)のマホシ事務局長は日本を訪問。今回の訪日は、SADCの戦略計画(RISDP)に基づき、日本からの投資促進やインフラ整備、経済協力の深化を目的としたもの。

○ SADC事務局長、JICA理事長と会談

8日、訪日中のマホシSADC事務局長は、田中明彦JICA理事長と会談した。両者は、IT技術を活用した「スマート輸送回廊」の構築や、電力・道路インフラ整備に向けた共同調査の実施など、SADC地域の接続性向上に向けた技術協力を強化していくことで合意した。

○ SADC事務局長、JBIC総裁と協議

9日、訪日中のマホシSADC事務局長は、国際協力銀行(JBIC)の林信光総裁と会談した。同事務局長は新たに設立予定の「SADC地域開発基金(RDF)」を紹介。南部アフリカのインフラや工業化を支えるための日本の公的資金による支援と、戦略的なパートナーシップの強化を呼びかけた。

○ SADC事務局長、JETRO理事と会談

9日、訪日中のマホシSADC事務局長は、日本貿易振興機構(JETRO)の鈴木隆史理事と会談した。両者は、日本企業の南部アフリカへの進出支援や、現地の工業化を加速させるための市場アクセス拡大に向けた具体的な協力について協議した。

○ SADC事務局長、経団連と会談

10日、訪日中のマホシSADC事務局長は経団連の幹部らと会談した。コマツや豊田通商らに対し、2026年に開催される「SADC工業化ウィーク」への参加と、南部アフリカの産業基盤強化に向けたさらなる投資を呼びかけた。

○ SADC臨時首脳会議が開催

17日、SADC臨時首脳会議が開催され、マダガスカル暫定政府に対し2026年2月末までの民主化ロードマップ提出と包括的な国民対話を義務付けた。また、バンダ元マ

ラウイ大統領率いる元首脳パネルの現地派遣を決定し、再選挙と政治的安定に向けた直接的な支援と監視を強化。また、南アフリカ大統領のラマポーザSADC議長のもと、ザンビアのヒチレマ大統領を次期SADC議長に任命し、地域一丸となって憲法秩序の回復を追求することで一致した。

【経済】

○ボツワナ銀行新総裁が任命

11月8日、ボコ大統領は、レセホ・キャスター・モセキ氏をボツワナ銀行総裁に任命した。同総裁は、2025年2月には副総裁に任命されていた。

○アフリカ開発銀行、ボツワナのマクロ経済動向予測を下方修正

アフリカ開発銀行はアフリカのマクロ経済動向と見通しを更新し、ボツワナの2025年の経済成長予測を0.8%から-0.8%に下方修正した。この下方修正により、ボツワナは南部アフリカで最も深刻な経済圏の一つに位置づけられた。ボツワナは2024年に-3.0%という大幅な経済縮小(地域最悪)を経験した。これは世界的なダイヤモンド需要減が主因である。ただし、改革が進展しダイヤモンド需要が回復すれば、2026年には2.5%のプラス成長に回復する可能性がある。

○金融政策委員会開催

4日、ボツワナ金融政策委員会(MPC)が開催され、国内の経済情勢を2025年6月までの年間GDPを3%縮小させたダイヤモンド市場の不確実性と低迷による国内圧力が継続するとした。MPCは緩和的な立場を維持し、金融政策金利を3.5%に据え置き、ボツワナ経済変革プログラム(BETP)及び第12次国家開発計画(NDP12)に基づく経済活動と継続的な変革努力を支援するため、関連する常設ファシリティの金利と指針を維持した。

○ボツワナ、野菜輸入禁止を再導入

8日、政府は野菜の輸入に対する広範な制限を再導入した。輸入を制限する理由として、トマト、ジャガイモ、タマネギ、キャベツ、ニンジン、ピーマン、にんにく、バターナッツなどの品目について、国内生産が堅調であることを挙げている。

○2025年10月の貿易統計

10月、ボツワナは76億2,550万プラの財を輸入。前月比で5.2%の増加。主な輸入品目は機械・電気機器(19.3%)、燃料(17.8%)、食品・飲料・たばこ(16.1%)。輸入財の主要供給元はSACU(68.3%)で、南アフリカ(63.1%)が首位、次いで中国(7.7%)、ナミビア(4.5%)。一方、輸出総額は39億6,990万プラで、前月と比

べ 23. 6%減少。輸出の大部分は、ダイヤモンド(54. 0%)及び銅(22. 4%)が占めた。アジアが最大の輸出先(55. 1%)であり、UAE(23. 4%)、南アフリカ(14. 5%)、インド(13. 1%)が主要市場。輸入の78. 5%は道路を、輸出の56. 0%は航空便を通じて行われた。

【広文】

○ボツワナ政府メディアのデジタル統合プラットフォームが始動

12月2日、モワサ大統領府担当大臣が、政府系メディアを統合した新しいウェブサイト massmedia.co.bw の公式立ち上げを発表。このサイトには次の国営メディアが統合・一元化され、オンラインで視聴できる。

- ✓ テレビ: Botswana Television (Btv News, Btv1, Btv2)
- ✓ ラジオ: Radio Botswana (RB1, RB2)
- ✓ 新聞・情報: Daily News, Department of Information Services

【当館関連行事】

○「サウスイースト地区ハボローネ西中等学校教室建設計画」の引渡式

12月3日、令和4年度対ボツワナ草の根・人間の安全保障無償資金協力「サウスイースト地区ハボローネ西中等学校教室建設計画」の引渡式が、進藤雄介駐ボツワナ日本国大使、ハボローネ西中等学校フランク・タウツァガエ校長等出席の下、ハボローネ西中等学校敷地内にて行われた。当日の大使インタビューが地元のネットテレビで放映された。

(了)